

特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の利用定員の変更について

千曲市保育課

1. 確認制度と利用定員について

- 子ども・子育て支援新制度では、施設・事業者が学校教育法、児童福祉法等に基づく「認可」を受けていることを前提に、施設・事業者からの申請に基づき、市町村が対象施設・事業として「確認」することにより、その施設・事業者が給付による財政支援の対象となります。
- 具体的には、給付の実施主体である市町村が、認可を受けた特定教育・保育施設（認定こども園、幼稚園、保育所）、特定地域型保育事業所（小規模保育等）に対して、その申請に基づき、各施設・事業の種類に従い、市町村事業計画に照らし、支給認定区分（1号認定、2号認定、3号認定）ごとの利用定員を定めた上で、給付の対象となることを確認し、給付費（委託費）を支払います。

2. 認可定員と利用定員

【認可定員】

- ・教育・保育施設の設置にあたり、学校教育法、児童福祉法、認定こども園法により認可された定員

【利用定員】

- ・子ども・子育て支援法により確認時に設定する定員
- ・給付単価（委託費）の根拠

子ども・子育て支援新制度にかかる認可・確認主体

給付種別	施設事業の種類		認可主体	確認主体
施設型給付	認定こども園	幼保連携型	長野県	千曲市
		幼稚園型		
		保育所型		
		地方裁量型		
	幼稚園			
	保育園			
地域型保育給付	小規模保育事業		千曲市	
	家庭的保育事業			
	居宅訪問型保育事業			
	事業所内保育事業			

3. 利用定員の考え方

- 各施設の認可定員の範囲内で利用定員を設定する。(認可定員が上限)
- 実際の入所児童数が認可定員を下回る施設については、利用定員を認可定員よりも少ない人数で設定することが可能。その際、認可定員数の変更は不要。
- 計画の「量の見込み」等の区分との整合性を確保する必要があることを踏まえ、1号(3歳～5歳)、2号(3歳～5歳)、3号(0歳と1・2歳の2区分)で設定します。

4. 令和8年4月1日利用定員の変更施設(予定)

●アルファベットキッズインターナショナル保育園(所在地:千曲市内川 580-1)

施設類型:地方裁量型認定こども園

認定区分	1号認定区分			2号認定区分			計
	3歳	4歳	5歳	3歳	4歳	5歳	
変更前	5人			15人			20人
変更後	10人			20人			30人

・最近3か年の実績(4/1 時点)

年度	1号認定区分			2号認定区分			合計
	3歳	4歳	5歳	3歳	4歳	5歳	
R5	0	0	0	5	9	6	20
R6	1	0	0	8	6	9	24
R7	0	1	0	9	7	6	23

●アルファベットベビーインターナショナル保育園(所在地:千曲市内川 580-1)

施設類型:小規模保育事業B型

認定区分	3号認定区分			計
	0歳	1歳	2歳	
変更前	<u>19人</u>			<u>19人</u>
	<u>3人</u>	<u>16人</u>		
変更後	<u>12人</u>			<u>12人</u>
	<u>2人</u>	<u>10人</u>		

・最近3か年の実績(4/1 時点)

年度	3号認定区分			合計
	0歳	1歳	2歳	
R5	3	7	7	17
R6	0	8	9	17
R7	1	6	10	17

(変更理由)

アルファベットキッズとアルファベットベビーについては、同じ建物内で認定こども園(3歳以上児対象)と小規模保育事業B型(3歳未満児対象)を運営しています。

ベビーを2歳児で卒園したお子さんが、引き続き、キッズに3歳児で入園を希望するケースが多く、現在のキッズの利用定員(20人)では、令和8年度の需要見込みである26人+ α (ベビーからの卒園児や新規申し込み)の受け入れができない状況となっています。

ベビーの定員を減らし、キッズの定員を増やすことで、令和8年度以降の3歳以上児の需要に対応していくことが可能となるため、令和8年4月1日から両施設の定員を変更します。

5. 利用定員の変更と、こども計画における「確保方策」との関係

今回のアルファベットキッズインターナショナル保育園及びアルファベットベビーインターナショナル保育園の利用定員の変更により、1号認定の定員及び2号認定の定員が増加し、3号認定の定員が減少することとなります。

当該保育園のある五加地区においては、市内でも保育需要が非常に高い地域であるため、3歳以上児(1号認定及び2号認定)の需要があり、受け皿の確保は必要であると考えています。

一方で、3号認定の定員は減少してしまうため、市としては、公立保育園の保育士の確保や施設整備を進めるとともに、小規模保育事業の公募などを実施することで、引き続き3歳未満児の受け皿確保に努めてまいります。